

既存漁業に科学の目を導入する

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産研究・教育機構
	公開日: 2023-05-01
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 藤井, 陽介
	メールアドレス:
	所属: 水産研究・教育機構
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/273

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.





水産流通経営学科
藤井 陽介

研究の目的

漁業技術は、古くから現場で経験的、主観的に運用、継承されてきました。そこで本研究では、既存漁業技術を科学的に分析することで、新たな特性を明らかにし、効率化することを目的としました。

研究の成果

ある町では、定置網漁業は地域を支える重要な産業となっています。定置網漁業の操業効率化を考えるために、潜在クラス分析(Latent Class Analysis)という手法を使って、水揚げ後の魚の荷捌き操業パターン(図1)を分析しました。

その結果、定置網漁業の荷捌き操業パターンは3つあることが分かり(表1)、これを踏まえた効率化対策が必要であることが示されました。



図1 操業パターン3の作業場レイアウト

表1 分析により類別された定置網荷捌き操業パターン別の特徴

操業 パターン	平均漁獲量 (kg)				合計	推定作業 時間(分)
	極小型魚 (0.1kg以下)	小型魚 (0.1-1kg)	中型魚 (1-3kg)	大型魚 (3kg以上)		
1	58	1,618	226	249	2,151	64
2	62	2,797	80	291	3,230	153
3	37	911	260	203	1,411	76
全操業日の 平均	45	1,227	243	222	1,738	67

波及効果

- ・ 漁業の効率化は、地域の活性化に貢献します。
- ・ 漁業技術を科学的に評価することで、新規参入者への技術伝承がスムーズとなります。